

審査の結果の要旨

氏名 張丹

論文題目：「大連における公園・緑地・海浜リゾートの展開に関する研究
—帝政ロシア・日本の統治時代から中華人民共和国の今日まで—」

本論文は、中国東北地方の海浜都市である大連市について、都市成立以来 115 年の歴史を通して、都市計画の経緯を公園・緑地及び海浜地域の計画史の視点から調査、研究を行ったものである。

中国では、1970 年代末期から展開されてきた改革開放政策により、高度経済成長が進み、市街地の拡大が進展し、土地利用、交通、住宅、環境衛生、景観等の都市問題に対して、総合的な取組が必要となっている。

大連市の成立は、1898 年、帝政ロシアが旅順と大連を租借し、ロシアの極東進出の拠点として開発されたことに始まる。日露戦争後、旅順・大連は日本の領土、関東州となり、1945 年まで日本統治下により都市建設が進められた。1945 年以降は、中華人民共和国時代に入り、これらの歴史的経緯が、大連の特色ある都市構造、独自の都市景観を形成する要因となっている。大連の緑とオープンスペースの特質を、都市形成史の観点から体系的に明らかにする研究は、これまで行われておらず、本研究の新規性は、この点にある。

研究の方法は、文献調査、現地調査、ヒアリング等によるもので、なかでも、関東州庁の未整理公文書から大連市街地計画に関する文献資料を、はじめて発掘することができた。また、行政機関の現職及び在任経験者などにヒアリングを実行し、大連における公園緑地の計画、建設過程、管理施策など第一次資料や一般に公表されていない資料を入手することができた。

本論文の学術的成果は、以下の通りである。

第一に、大連における都市計画は、統治した国による計画思想が大きな影響を与えており、なかでも公園・緑地計画は、その特質を空間形態として明確に反映しており、萌芽期（1898—1904 年、帝政ロシア統治期）、基盤整備期（1905—1945 年、日本統治期）、発展期（1945—現在）にわかれることが分かった。特筆すべき点は、公園・緑地は部分的に改廃を遂げたものの、都市構造の骨格として、時代を越えて継承されていることが重要であることが分かった。

第二に、基盤整備期の都市計画は、日本の統治下で実施されたが、諸外国の都市計画事例を踏まえた、当時の最も先端的計画思想が導入されたことが特色

であることが明らかとなった。

すなわち、日本は、帝政ロシアの計画を継承し、広場的空間(10箇所)、公園(6箇所)、サムソンスキ並木道などを実現に導いた。また市街地背後の丘陵地の緑地保全を行い、良好な海浜地区は、リゾートとして景観を重視し整備を行った。特に丘陵地末端の調整池は、雨水排水系統と連動して一体的整備が行われた。大連市の拡大に伴い、総合的な都市計画の考え方と、当時の最先端の計画思想である広域計画としての地域計画が導入された。1941年、市街地の無統制の拡大と乱開発を防ぐため、北部臨海工業ニュータウンの計画と南部馬欄河区域の住宅地の整理を目的とする「大連市街計画」が策定された。計画内容は港湾、鉄道、道路及び水路、用途地域、公園、学校用地の部などからなり、近隣住区理論の導入による、はじめての総合的都市計画であった。また、この計画の特徴は、広幅員道路や河川沿いの線路型の緑地帯を計画し、それに大公園、近隣公園、児童公園等、様々な公園、学校をネットワーク化させ、都市の骨格となる公園系統（パークシステム）をつくり出したことにある。

第三は、これまで、実態が解明されてこなかった中華人民共和国の建国以降の、公園緑地計画と事業の全貌を明らかにしたことにある。本研究では、1958年の「大連都市総体計画」、1985年の「大連市城郷建設総体規畫」、1995年の「大連市都市総体計画」（2000－2020年）を公園緑地計画の考え方、手法、事業実績の視点から経年的に分析を行った。その結果、公園緑地計画思想は、1980年ごろより、観光政策、風景の保全が重視されることようになり、1990年代には、城郷一体化という都市農村の均衡ある発展を目標とする考え方に発展してきたことが分かった。現在は、歴史的な公園緑地の蓄積を生かした都市、海浜の再開発が進展しており、生態都市への転換が行われていることが分かった。また、大連は風光優美の海浜を持つため、百年前に、南満州第一の海浜リゾート、海浜浴場などを形成したが、これを基盤とし南部海浜風景区は発展を遂げてきており、大連の観光拠点となっている。このことから、風景の保全、活用の鍵となるのは、歴史的に蓄積された公園・緑地施策であることが分かった。

総じて、本研究は、大連の公園緑地について、115年に及ぶ都市形成史を踏まえて、その計画思想と実現のプロセスを明らかにしたものであり、大連市の公園緑地の大きな特質が、異なる時代の多様な公園緑地が時代の変化の中で消滅することなく、むしろ蓄積されて都市の骨格となっていることを提示した。

以上の業績により、本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。